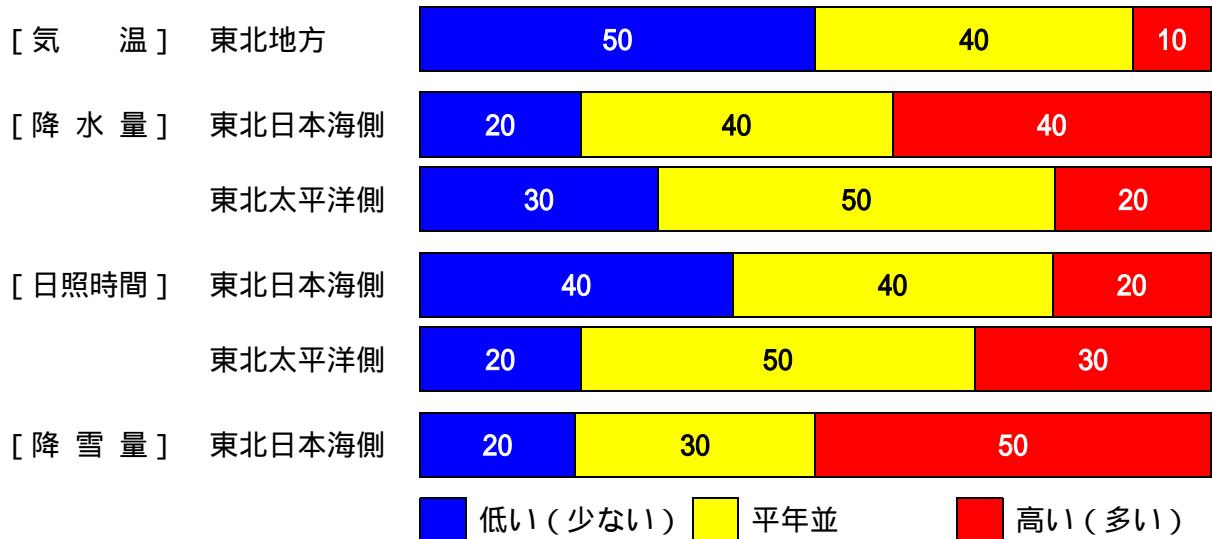


東北地方の1か月予報解説資料（予報期間：12月1日～12月30日）

平成13年11月30日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]：東北地方は「低い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は40%です。「高い」の可能性は10%と小さい。

[降水量]：東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]：東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[降雪量]：東北日本海側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

冬型の気圧配置が強まり、強い寒気の入る時期があるでしょう。東北日本海側では平年に比べ雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約17日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (12月1日～12月7日) 期間の中頃に気圧の谷の影響で天気が崩れる見込みです。その他の日は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では曇りや雪または雨が降りますが、東北太平洋側では概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並ですが、期間の初めは低いところがあるでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

2週目…………… (12月8日～12月14日) 冬型の気圧配置が強まり、強い寒気の入る時期があるでしょう。東北日本海側では平年に比べ雪の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

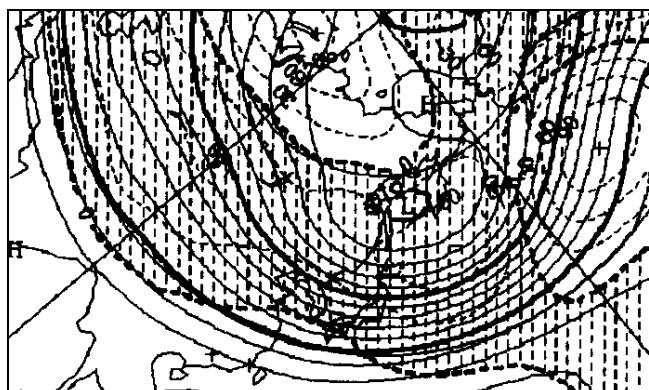
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日

3～4週目…………… (12月15日～12月28日) 冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極付近は正偏差で、極渦はオホーツク海まで南下し、極東の中緯度帯は広く負偏差に覆われる。このため、寒気の影響を受けやすい。

ただし、中国大陆も負偏差で、偏西風の流れは東西流が卓越しており、冬型の気圧配置は長続きしにくい。

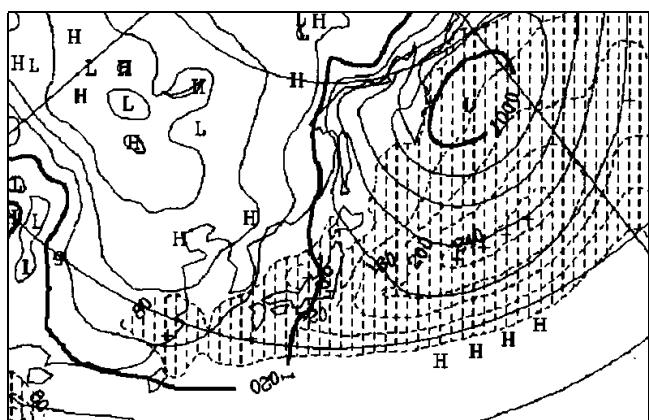
週別（図略）では、各週とも月平均と同様で、北日本付近は負偏差。ただし、オホーツク海の極渦は2週目が最も強く、寒気の影響を受けやすいと考える。

・ 地上気圧と降水量

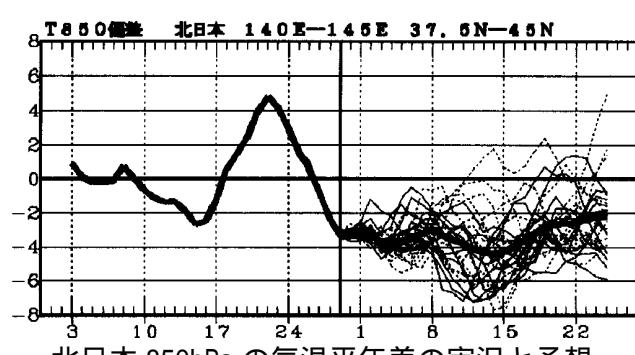
月平均で見ると、中国大陆に優勢な高気圧があり、アリューシャンには発達した低気圧があって、日本付近は冬型の気圧配置となっている。

まとまった降水域は、日本の南岸から東北東に延び、低気圧の影響が考えられる。また、日本海を中心とした降水域もかかる。

週別（図略）では、各週とも月平均と同様で冬型の気圧配置となっている。ただし、2週目が相対的には強い冬型。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸 : 気温平年差 () 横軸 : 日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）
の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、期間中平年を大きく下回り、特に2週目後半から3週目に低極となる。

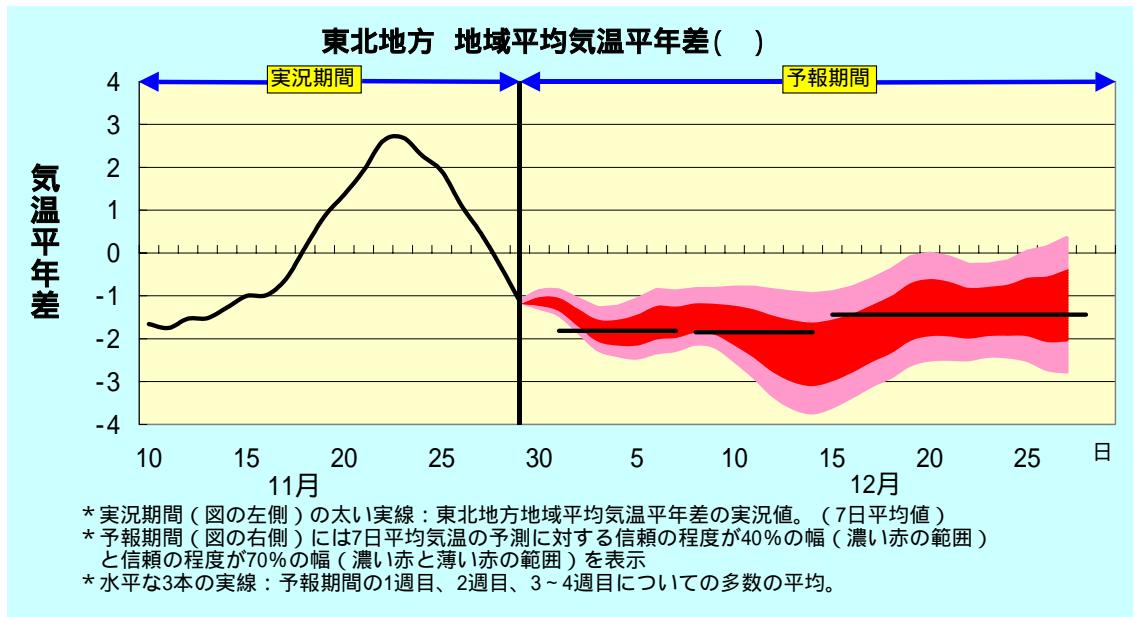
ただし、東日本の気温平年差時系列は3週目にかけて平年並から下降する。

なお、2週目以降は各メンバーのばらつきが大きくなる。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目共に「低い」を予測している。

予報は、1週目は週間予報資料から「平年並」とするが、2週目以降は予測通りとする。
なお、予報の信頼度は大きい。

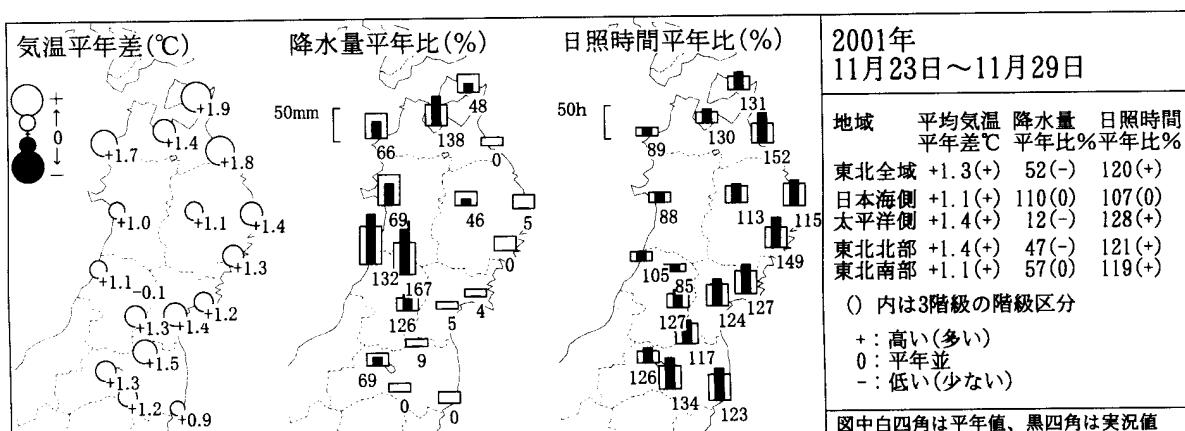


4. 最近1週間（11月23日～11月29日）の天候の経過

期間の初めは、帯状の高気圧に広く覆われ、東北日本海側では一時雨となる所もあったが概ね晴れた。また、25日には寒冷前線が通過し、東北日本海側を中心に天気が崩れた。寒冷前線の通過後は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側を中心に雪や雨となったが、東北太平洋側では概ね晴れた。29日には低気圧が日本海に進んだため雨となった。

26日は深浦、28日は小名浜で初氷を観測し、27日には大船渡、山形、仙台、石巻で初雪、階上岳（青森県）では初冠雪を観測した。

平均気温は、東北地方で平年差+1.3と高かった。降水量は、東北日本海側で平年比110%と平年並、東北太平洋側で平年比12%と少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比107%と平年並、東北太平洋側で平年比128%と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）